

令和6年3月25日
弥彦村社会教育委員の会

《社会教育委員の活動を振り返り》

今年度の弥彦村の出生数は、2月現在で10名と聞いています。少子高齢化が全国で進んでいることは分っているものの、いざ数字で示されると驚いてしまいます。このままでは、村の存続が危くなることは、なんとなく分かります。現在、村では、「日本一子を産み育てやすい村づくり」を目指して、子育て世帯への経済的支援を重点的に実施することになっています。18歳までの子育てを行う世帯に最大500万円を超える支援を行うということです。

熱い支援に加え、買い物や公共交通機関の利便性が向上することは、住民にとって、とても重要です。そして何より、魅力ある村にすることが住民を増やすことにつながると考えます。

社会教育委員として、今後、魅力ある村づくりに取り組んで行きたいと思えます。



保育園児の協力

さて、今年度の社会教育委員の会では、4つの活動方針を立てて活動しました。

- (1) SNSを活用して社会教育事業と社会教育委員について村民に周知する。
Instagramを運用して、社会教育に関する情報や地域づくりのための情報配信に取り組みました。現在、フォロワーはまだ少ないので、フォロワーの獲得に努めています。
- (2) 委員個々の資質が高まるよう研修会等へ参加し、各自が主体的に活動する。
社会教育委員の県や地域の研修会、近隣市との合同研修会を実施し、委員としての資質の向上に努めました。
- (3) あいさつ運動3年目の取組をさらに前進させる。
のぼり旗を新しくし、夏と秋にあいさつ運動を展開し、2回のあいさつ呼びかけ活動を行いました。効果は、間違いなく出ていると思えます。子どもたちのあいさつが良くなり、反応してくれる村民が増えたと感じています。
- (4) 互いに高め合い、協力して課題解決に取り組む。
10名の委員が、協力して、「できる時にできる人がやる」を合言葉に、村の課題解決に楽しく取り組んでいます。

3月5日に行った教育委員会との懇談会で、村への提言を発表して教育長に提言書を提出しました。内容は、次の4点で、理由を付して提案しました。

- ① 役場職員に社会教育委員の活動状況や成果を知ってもらいたい
- ② あいさつ運動や交流会に役場職員から協力してもらいたい
- ③ 冬季、雨天時に子どもたちが体を動かして遊べる環境づくりをしてもらいたい
- ④ 地域づくり交流会、弥彦ユースプランナーで出た意見を実現してもらいたい

提言をするには、社会教育委員としての活動が有益であることが重要であると考えます。提言内容は、交流会で出された村民の声をまとめたものでもあります。

次年度も、村のためになる活動を推進してまいります。皆さん、Instagramをフォローして、活動への協力をお願いいたします。

(文責 渡辺和)

《弥彦ユースプランナー第2回協議会》

弥彦ユースプランナー” Y Y P ” 第2回協議会が3月10日弥彦総合文化会館小ホールにて行われました。委員10名が全員集まり、次の6点について協議を行いました。

- | | | | |
|------------|---------|----------|---------|
| 1 学校・教育 | 2 若者のため | 3 高齢者のため | 4 地域づくり |
| 5 地域を盛り上げる | 6 その他 | | |

「弥彦村への提言」をまとめるために、2グループに分かれて協議をしました。今回は、グループの2番目の年長者が進行役となり、年長者がライターとなって提言をまとめました。

グループで協議するのも3回目ということもあって、メンバー同士のやり取りに慣れてきましたが、教育長、社会教育課長、社会教育委員、公民館長と大勢の大人がジッと見ているのは、協議もやりにくいだろうと、社会教育委員が退場して、リラックスして飲み物等取りながら協議を進めてもらいました。約90分程度の協議後に各グループが協議内容を発表し、全員で何を提言すべきか意見を出し合いました。小学5年生からの10名全員の意見を年長者の本間さんが上手く話をすすめ、村への提言をまとめてくれました。

協議後に、Y Y Pとして今年1年の活動で、どんなことを感じたか・そして今後どのようにして行きたいかを1人1人発表してもらいました。「はじめはちょっと面倒だったが、結果とても楽しく活動が出来た。」「普段は村のことを考えることはあまり無かったが、活動をきっかけに考えることが多くなった。」「村に対して思っていることはあったが、活動を通して自分の意見として思いを話し、聞いて貰えて良かった。」「来年度は友達も誘ってまたY Y Pとして活動したい。」等の声が聞かれました。たった3回の集まりでしたが、メンバーの成長を実感できる発言に、参加していた大人は、嬉しく、頼もしく感じました。

この協議会でまとめた提言は、3月末にY Y Pメンバー（参加できる委員全員）から本間村長へ、説明して直接渡してもらいます。

来年度は、引き続きY Y Pの活動を展開していきます。協議だけでなく、委員が考える取組も実践できればと考えています。村民のみなさんも、1年間の活動を通して逞しくなったY Y Pの次年度の活動を暖かく見守ってください。（文責 阿部）



Y Y Pメンバー10名



全体協議の様子

Y Y Pからの村への提言の内容（要約）

1. 弥彦村公式アプリの開発

弥彦村民、また弥彦を訪れる観光客が簡単に弥彦村に関する情報にアクセスできるアプリの開発を提案する。アプリの機能としては、下記に示すものを想定している。

- ・弥彦村内の施設情報を掲載するGISを用いた地図
- ・イベント情報
- ・弥彦村の天気
- ・意見箱
- ・掲示板
- ・弥彦村で撮影された写真をもとに作成した壁紙の配信
- ・デジタルスタンプラリー（デザインにはミコぴよんを使用）

2. 空き家物件の積極的活用

弥彦村で多くの空き家が放置されている現状は改善する。弥彦村にある空き家物件と弥彦村で出店

を考えている人を結びつけ、出店をサポートすることを提案する（商工会とも協力）。また、空き家を活用し、高齢者が家の近くで生活必需品等を購入できる店舗を出店する。

3. 吉田駅への公共交通の充実

J R 弥彦線や循環バスの本数や運行時間が短い現状では、車を運転できない若者の移動手段や時間帯に限られる。一方、相対的に運行時間帯の長いJ R越後線や弥彦線（吉田～東三条）の乗り入れる吉田駅までの交通手段を確保することができれば、若者にとっての交通の利便性ははるかに向上する。そこで、自動運転車両を活用し、J R弥彦線の始発前や終電後の時間帯に吉田駅と弥彦村を繋ぐルートでの運行を提案する。始発前や終電後は比較的交通量が少ない時間帯であり、安全性や定時運行を考えた時に、自動運転車両を活用しやすい時間帯であると考えます。

4. らいわ弥彦の利用ルールの明確化

らいわ弥彦の利用ルールはあるが、利用したことのあるYYP から時間帯によって騒がしい、使い方の良くわからない設備があるなどの話があった。例えば、集中して作業するために、館内のBGMが耳に入らない学習室を利用しようと思ったが、賑やかだったため利用を断念した。また、個人用のレンタルブースも設置されているが、部屋の数に限られて時間制限があるため、のびのびと利用することができない。そこで、開館から一定期間が経過した現在の利用状況を踏まえ、現状の利用ルールの評価と、改めて利用者に対する利用ルールを明確に周知し、すべての人が気持ちよく利用できる、らいわ弥彦にすることを提案する。

5. 小学校における清掃回数の変更

現在小学校の清掃が週に1回のみで、少ないのではないかとの意見があった。清掃をすることによって下校時刻がやや遅くなる可能性はあるが、校内の環境を綺麗に保つために、清掃の回数を増やすことを提案する。

《スポーツ少年団紹介No. 8 : 弥彦村バドミントンクラブ》

今回は弥彦村スポーツ少年団より、弥彦村バドミントンクラブの活動を紹介します。代表の吉田良寿さんにお話を伺いました。

毎週火曜日の 19:00～20:10、弥彦体育館で活動をしています。加入対象は小学4～6年生で、男女は問いません。中学生も時々体を動かして参加しています。

練習は軽いウォーミングアップから始まり、ダッシュなど足腰を鍛えるトレーニングを行います。その後、ネットを挟んでラリー形式で練習を行います。打ち合いの様子を見ながら、適宜、技術的なアドバイスをします。一年を通して活動していますが、冬場には少年団内での個人戦トーナメントを行い、優勝者には賞品を出しているそうです。

活動方針としては、子どもたちが思い切り体を動かして楽しんでもらうことを大事にしているそうです。技術指導も多少しますが、まずは運動を楽しんでもらうことがねらいです。バドミントンを通じて子どもたちの身体能力、運動能力を向上させるとともに、この場所が楽しい場所だと思ってもらうことを第一に考えていますとお話しくれました。（文責 柏原貴）



練習風景 1



練習風景 2

《令和5年度新潟県社会教育委員連絡協議会表彰受賞》

平成28年4月から弥彦村社会教育員としてご活躍されている、柏原路子さんが10月に胎内市で開催された第23回新潟県社会教育研究大会で、令和5年度新潟県社会教育委員連絡協議会表彰を受賞されました。

柏原さんは、埼玉県蕨市出身で弥彦村出身のご主人と結婚後、昭和62年3月から弥彦村麓二区に移住されました。公民館勤務時代は弥彦村教育委員会の仕事や社会教育指導員、弥彦村神社勤務、弥彦村地域教育コーディネーターなどを務められ、現在も弥彦村文化財保護審議会委員・学校運営協議会委員として弥彦村のために活躍されています。

柏原さんは「社会教育委員に入ったころは年2回程度の集まりだったが、今は、それが何倍にも増え、自分たちで考えて、やりたい事をやる。それを村に発信していくことと、活動が変わった。社会教育委員の会で毎年開催している『地域づくり交流会』では、いろいろな年代の人と議論ができ、委員としても良い経験で勉強になっている。」とお話しされていました。そして、今回の受賞について「自分自身に丸7年間ご苦労様と言いたい。」とも話されました。

柏原さんは、弥彦村社会教育委員の会のお母さんの存在で、社会教育委員を優しく温かくリードしてくれています。今後も弥彦村での更なるご活躍をご期待するとともに、社会教育委員の会にも力を貸してくださることをお願いします。
(文責 石塚)



県社教連会長からの授与



受賞者の皆さんと



柏原路子さん

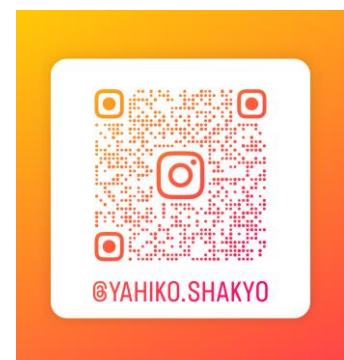
《社会教育委員の会インスタグラムのフォローを！》

むすぶ29号で、社会教育委員の会がInstagramを開したことをお知らせしました。残念ながら、フォロワーがまだまだ多くありません。

ぜひ、Instagramをフォローして村の社会教育、生涯学習、地域づくり等の情報を手に入れてください。

そして、社会教育委員の活動を理解し、活動に協力していただければありがたいです。

右のQRコードを読み取って、ぜひ、フォローしてください。



委員 ◎渡辺和也(矢作) ○柏原路子(麓二区)
半間義之(矢作) 石井 亘(井田) 阿部朗子(弥彦) 柏原貴也(麓二区)
石塚孝也(矢作) 東樹 薫(美山) 高田美鈴(弥彦) 渡邊友博(井田)

事務局 堀 隆行・白井宏侑(社会教育課)

※ ご意見、お聞きになりたいことがある方は、近くの委員、もしくは、社会教育課事務局にお電話ください。(事務局94-4311)